

W I L C O M M

Wilspool API 概要

API001 (Last Update : 2002/5/7)

WilComm AS400 V7.15

© Copyright 2000

K.I.S.S. Inc.



WILSP00L API 概 要

WILCOMM では主に次の 2 つの方法でスプールファイルを配信します。

- ・ OUTQI (アウトキューインターセプター)
- ・ WILSP00L (ウィルスプール)

前者の OUTQI は従来からある機能で、スプールファイルを WILCOMM の監視対象の OUTQ へ投入することで自動的に WilComm が処理して送信する**パッチ処理機能**です。後者の WILSP00L (WilComm メインメニューのオプション「11.ウィルスプール・ユーティリティ」)は、画面よりスプールファイルを選択し、配信方法、宛先、フォーム等を指定する**対話型処理機能**です。WILSP00L API とは、この WILSP00L の一連の手続きをプログラミングするために用意されたインターフェース部分を指します。[WILSP00L API を使用するには、ユーザによるプログラム開発が前提となります。](#)(開発方法につきましては、WILSP00L API プログラマーズガイド(無償) 1 日程度の教育コース(有償)を用意いたしております。)

WILSP00L API を使用することにより OUTQI では実現できなかった以下の項目が可能となります。

・ 1 つのスプールファイルで複数のフォームを使用する場合の一括送信

次のような 5 ページのスプールファイルを処理した場合を例にとって説明いたします。

ページ 1 : 宛先 : A 社 内容 : ヘダー情報 使用するフォーム : ヘダーフォーム

ページ 2 : 宛先 : A 社 内容 : 明細情報 使用するフォーム : 明細フォーム

ページ 3 : 宛先 : B 社 内容 : ヘダー情報 使用するフォーム : ヘダーフォーム

ページ 4 : 宛先 : B 社 内容 : 明細情報 使用するフォーム : 明細フォーム

ページ 5 : 宛先 : B 社 内容 : 明細情報 使用するフォーム : 明細フォーム

従来からある機能 OUTQI でこの帳票を**ファックス送信**しますと、次のような処理になります。

1 ページ目がヘダーフォームにマッピングされて A 社へ送信

3 ページ目がヘダーフォームにマッピングされて B 社へ送信

2 ページ目が明細フォームにマッピングされて A 社へ送信

4 ページ目と 5 ページ目が明細フォームにマッピングされて B 社へ送信

一方同じ帳票を WILSP00L API を使用して処理した場合には、次のような処理になります。

1 ページ目がヘダーフォームに、2 ページ目が明細フォームにマッピングされて A 社へ送信

3 ページ目がヘダーフォームに、4 , 5 ページ目が明細フォームにマッピングされて B 社へ送信

同じデータを P D F 形式のファイルに変換し**メールの添付として送信**するケースを考えた場合、ファックス同様 OUTQI で処理も行った場合には、1 社に対してヘダーページが添付されたメール、明細データが添付されたメールの 2 通が送信されることとなります。この場合も WILSP00L API を使用することで、2 つの P D F ファイルを 1 通のメールに添付して送信する事が可能となります。また、P D F ファイル結合機能を使用することによって、ヘダーページの P D F ファイルと明細ページの P D F ファイルを 1 つの P D F ファイルに結合することが可能です。

ファックス、メール同様に**プリンターから出力**するケースを考えた場合、従来からある機能 OUTQI にて処理を行いますとファックス、メールの場合と同じ理由で最初にヘダーページがすべて出力され、次に明細ページが出力されます。従いまして、ヘダーと明細をソートする作業が発生することとなりますので、ページ数の多い帳票などの場合には、非常に多くの労力が必要となります。このようなケースでも WILSPool API を使用しますと、ヘダー・明細で 1 セットという単位で処理されますので、ヘダーと明細をソートする作業は発生しません

・ WILFILE の活用

新しく追加されたファイル保管機能 WILFILE は、今回のバージョンでは WILSPool と WILSPool API のみ動作します。詳しくはウィルファイルのマニュアルをご参照下さい。

・ ディストリビューションウィザードの設定が不要

従来からある機能 OUTQI では、ディストリビューションウィザードで、処理方法（FAX、Eメール、プリント）、送信先のアドレス、マッピングするフォーム等の情報を定義していました。

WILSPool API では、従来 PC 側で設定していた内容を AS/400 のユーザー開発プログラムから API へ指定するため、ディストリビューションウィザードの設定は必要ありません

・ メールの件名・本文を自由に設定

従来からある機能 OUTQI では、PC 側で作成した定義に対して 1 つの件名・メール本文しか設定する事ができませんでしたが、WILSPool API を使用しますと、宛先毎に異なる件名、メール本文を指定することが可能となります。また、PDF 形式のファイルでメールに添付して送信する際の添付ファイル名も AS/400 側で指定することが可能です。

・ 宛先情報の取得方法

宛先情報は、ユーザー定義データベースから取得、WilComm のアドレス帳を使用、ユーザープログラム内での直接指定、いずれかの方法で行うことができます。

WILSPPOOL API 構成図

